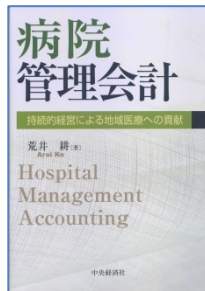


【 書 評 】



『病院管理会計 - 持続的経営による地域医療への貢献』

荒井 耕 著

株式会社中央経済社

平成25年11月1日刊

A5判・本体価格4,600円 + 税

病院を取り巻く環境は、国民の医療費の増加を背景に、診療報酬の継続的な抑制政策、質が高く効率的な医療への要求の高まり、医療機能の分化と連携が求められている。その中で、価値の高い医療サービスの継続的な提供のために、戦略的な経営と管理会計の重要性が高まっている。

著者は、そのような問題意識のもと、管理会計の役割について、病院に要求される多様な業績を同時統合的に管理する仕組みとしてとらえて、病院管理会計の全体像と管理会計の各種手法間の相互関係の位置付けを、経営実態の調査と分析を通して研究されている。

本書は、病院の経営管理に関して、体系的な管理会計の研究書である。著者は、すでに『医療バランスト・スコアカード - 英米の展開と日本の挑戦』、『医療原価計算 - 先駆的な英米医療界からの示唆』、『病院原価計算 - 医療制度適応への経営改革』、『医療サービス価値企画 - 診療プロトコル開発による費用対成果の追求』の4部作を公表しており、それぞれ、戦略遂行マネジメント、経営情報マネジメント、医療サービスの提供プロセスマネジメントに関わる管理会計についてまとめている。本書は、著者が提示する4つのマネジメント領域のうち、責任センターマネジメントに関わる管理会計の研究に一定の重きを置きつつ、4つのマネジメント領域すべてを対象として病院管理会計の全体像を論じたものである。

本書の特徴は、病院管理会計の全体像の中で、上記の4つのマネジメント領域に関わる管理会計の各種の仕組みや手法について、アンケート調査、インタビュー調査、公表データの分析などを利用しながら、その仕組みや手法の必要性の高まりと実践の現状を明らかにして、今後の管理会計の適用に関する示唆を述べていることである。

加えて、本書では、補論として、病院の採算性を改善するための方策として、実務界では様々な見解がみられる中で、各種の業務実績（手術件数、病床利用率、医師1人当たり患者数、平均在院日数など）と採算性との相関関係について検証を試みている。また、高い質と低い原価（高い採算性）は両立し得ないという医療界の伝統的な考え方に対して、各種の質指標と採算性指標との相関関係の分析を通して、この二律背反を検証し、高い質と採算性の両立の可能性を示唆している。

本書は、これまでの病院管理会計の理論や実務を一步前進させるという先進性がある。また、公認会計士等の実務家にとって、参考となる内容のものであり、病院管理会計の理

解を深めることによりマネジメント・コンサルティング・サービス(MCS)業務の充実及び発展に寄与するものと認められ、病院の経営改革を通して地域医療への貢献につながることを期待されるものである。

以上のことから、協会学術賞 - MCS賞に値するものとして選定した。